

「浜松市の無形民俗文化財」教材用資料

ふりがな	ふところやま の おくない	担い手	懐山おくない保存会
名 称	懐山のおくない	文化財指定	国指定 平成6年(1994年)
場 所	天竜区懐山466 泰蔵院(たいぞういん)	開催日	1月3日
概 要	「遠江のひよんどりとおくない」として「川名のひよんどり」「寺野のひよんどり」「懐山のおくない」が同時に国指定を受けている。数百年前から懐山に伝わる修正会(しゅしょうえ=中世に各地で隆盛した寺院の正月行事)の一種で、例年1月3日に五穀豊穡(作物がたくさん育つこと)や無病息災(健康で過ごせること)、子孫繁栄(家族がずっと続くこと)などの祈りを込めて行われる。神楽と田遊び(稲作所作などを田の神に奉納し、豊作を願う芸能)により構成され、特に、田遊びの芸能には「塩買い」「綿買い」といった当時の村人の生活がよく表されている。		
演目・楽器	1月3日の午前中には、禰宜(ねぎ=神様のお手伝いをする人)が六所神社裏手の不動の滝で水を汲み、面や使用する道具、衣裳を清める。祭りに参加する人は泰蔵院に集まり「三々九度」という冷酒の儀式の後、屋外の小祠「伽藍様」の前で「伽藍様の祭」を行う。泰蔵院に戻り、阿弥陀様の前で舞を始める。 【前段の祭事】 1.不動様の水汲 2.牛玉法印 3.面清め 4.阿弥陀様の祭 5.三三九度の杯 6.伽藍様の祭 【懐山おくないの舞】 1.神の舞 2.三ツ舞 3.槍の舞 4.槍のもどき 5.剣の舞 6.剣のもどき 7.両剣の舞 8.両剣のもどき 9.翁 10.松かげ 11.宵の獅子 12.鬼の舞 13.仏の舞 14.年男 15.火王さま 16.鞠のかがり 17.四節の四季 18.松竹 19.田打 20.みの口 21.田打洗 22.苗草取 23.草敷 24.種撒 25.鳥追い 26.麦米搗ひる洗う 27.田遊 28.山家田遊 29.肥ならし稲刈 30.女郎の舞 31.稲叢 32.駒の舞 33.猿追い 34.桑とり 35.綿買い 36.いとくり 37.塩買い 38.悪魔払い 39.夜明けの獅子 40.舞い納め		
変遷 現在の姿	おくないは、明治20年(1887年)頃まで阿弥陀堂で行われていたが、現在は泰蔵院本堂で行われている。代々禰宜をつとめる「ねんや」の屋号を持つ大石太市と阿弥陀田を作ってきた下山良一を中心に世話人や班長などが集まり、費用を各戸で平等に負担し祭りを行っていた。昭和48年(1973年)全戸加入の保存会が結成された。		

●作成年月日／令和6年9月30日現在の情報

